

「グループ中国だい好き」会報  
**『中国だい好き』**

我们很喜欢中国!

*Women hen xihuan zhongguo!*

- 代表 内田知行 042-464-8858  
〒203-0034 東久留米市弥生2-7-13
- 編集・発行グループ  
内田知行 川村隆子  
千田 茂 富岡幸雄
- <http://kuru2.genki.365.net/> (くるくる)
- <http://zuixihuan.exblog.jp/>(ブログ)

楽しく勉強しています

## 第1期 雜学講座 現代中国の成り立ちの歴史

「中国だい好き」の初めての試みである雑学講座が10月4日に始まりました。講師は内田会長。毎週1回、水曜日10時～12時、滝山5丁目の「いっぽの台所」(会員である宮秋道男氏の主宰する「一歩の会」の事務所・食堂)を会場として行われており、12月6日現在ですでに第9回となりました。これまでの講義内容は以下の通りです。

- 第1回 10月4日 現代中国の社会についての基礎知識
- 第2回 10月11日 共和国建国前史(1945～49年)
- 第3回 10月18日 経済回復期(1949～52年)
- 第4回 10月25日 第1次5か年計画(1953～57年)
- 第5回 11月1日 中国の反右派闘争とハンガリーの民主化革命
- 第6回 11月8日 廬山会議：大躍進運動をめぐる政策論争
- 第7回 11月15日 経済調整期(1961～65年)
- 第8回 11月22日 文化大革命の時代(1966～76年)
- 第9回 11月29日 中国農村の文化大革命
- 第10回 12月6日 文化大革命時代の人口移動



# アモイ 福建省（廈門、武夷山、泉州）7日間の旅

内田 知行

2017年9月9日から15日まで「中国だい好き」主催の福建旅行に参加しました。成田から廈門（アモイ）に直行し、第一日目には南普陀寺や胡里山砲台（アヘン戦争の時代の砲台）遺跡など市内の名所旧跡を訪れました。

第二日目には龍岩市永定区湖坑鎮の「客家民族文化村」を訪れました。この「文化村」は客家（「はつか」と読みます）の人びとが集住する大規模建築ともいべき「土楼」で有名な観光地です。いまでも120以上の「土楼」が残っています。中をゆっくりと見学したのが、「土楼のなかの王子様」と当地の人びとが呼んでいる振成楼です。



永定土楼・振成楼の前で

振成楼の前で「中国だい好き」の横断幕を掲げてみんなで記念撮影をしました。そこにいた中國人カメラマンも私たちの記念撮影を頼みもしないのに撮っていました。私たちは「撮っても買わないからね」と言いました。

私たちが土楼の見学を終えて出口付近でぶらぶらしていると、カメラマンが「永定客家土楼留影 2017.9.10」と印字した大判写真をきれいな表紙をつけて持ってきました。

これが、デジカメで撮った私たちの写真よりも美しい出来栄えなのでした。1枚10元と値段も日本で注文するよりも安いので、結局、私も含めて参加者の大半が買ってしまいました。まったくうまく乗せられてしまいました。



振成楼の23代目の楼主

この「文化村」には、今でも 120 以上の大小さまざまな土楼が残っているそうです。山道を 30 分ほど歩いたところに古くて美しい土楼があるとのことでしたが、今後の旅程を考えてこの見学は省略しました。

第三日目は、早朝に出発し高速列車に乗って福建省北部の武夷山に移動しました。この日の午後は、武夷山第一の景勝地である「天游峰風景区」に行きました。ホテルから武夷山の登山口までは大型観光バスに、登山口から「天游峰」登山口までは 20 分ほど蒸気機関車を模した電気自動車になりました。そこから数分山道を登り、ほんとうの入山口に着きました。



この高速鉄道でアモイから武夷山東駅へ



カゴに揺られて武夷山天游峰へ

急峻な山道と遙か彼方の山頂を見て、私たち参加者のうち 7 人は竹で編んだ駕籠に乗ることにしました。一丁の駕籠を中年のオジさん 2 人が前後から担ぎます。目的地までの往復の料金は約 400 元と 2 時間前後のチャーター料としては相当に割高でした。

出発して 10 分ほどで突然の集中豪雨に見舞われました。雨宿りの場所もなくて、私の場合は雨傘をさしてしばらく駕籠のなかに縮こまっていました。30 分以上雨宿りしてから駕籠はまた上りました。

もっとも目的地は天游峰ではなくて高台の中間点でした。見たところ、中間点から天游峰まではさらに急峻で雨上がりの駕籠で上るのは不可能に思えました。体重 65 キロプラスアルファの私には、「駕籠の登山」はもう十分に思えました。中間点の滝口には、今しがた降った雨のために突然の滝が落ちていました。

第四日目の武夷山観光では、午前に竹の筏に乗って「九曲溪風景区」の川下りを楽しみました。

上流の船着き場を出発するとまず「九曲」の急峻な地点を通過し、最後の「一曲」の先の船着き場まで、1 時間半ほどの筏の旅です。

船頭は前後に二人で、乗客定員は 6 人。私が川村さん、窪寺さんと乗った筏には福建省蒲田市の夫婦と一人娘の 3 人家族が「合い席」



筏に乗って九曲溪を下りました。

になりました。船頭さんは前が女性、後ろが男性で、前の人人が舵取りです。後ろの人が、鉄の太い矢じりをつけた長いさおを水中や川辺の岩に突き刺して筏を前進させる役目で、これは相当な力仕事のようでした。

川べりの岸壁にはところどころに漢詩が彫ってあり、彫刻の赤字が渓流の風景に文字通り色を添えていました。漢詩を朗々と詠んじるだけの教養がないのが惜しました。

午後には、武夷山の「大紅袍風景区」を見学しました。ここは高い岸壁に貼りつくように伸びている「岩茶」の原木として著名な「大紅袍母樹」があるところです。

この風景区にはさまざまな種類の茶の茶畑があります。そのうちの「王様」がこの「岩茶」から採れる茶葉だそうで、収穫量もきわめて僅かというわけで、現在では市場取引は行われていないとのことでした。



岸壁の草木——大紅袍母樹



この茶店で 100g=120 元の茶を買いました。

「大紅袍」見学後には、「大茶壺山莊」という銘茶の製造販売店に案内され、3, 4 種類のお茶を試飲させてもらいました。若い娘さんがお茶を淹れてくれましたが、安い茶から始まり最後に最高級茶でした。こういう試飲方法だと、やっぱり私たちでも味の良し悪しがわかります。試飲した皆さんのが「敵の策略」にはまって、高級茶を購入するという結果となりました。

もっとも、私は前の晩にホテルの近くのお茶のマーケットで 100 グラム 120 元(約 2000 円)の高級茶を 100 グラムも買っていたので、ここでは買いませんでした。前夜の試飲でも 2, 3 種類試飲してから一番おいしい茶葉を買ったので、私は皆さんに 1 日先んじて「敵の策略」にはまったということになります。

この日は、高速鉄道にのって夜 11 時過ぎに廈門のホテルに着きました。

第五日目は廈門のコロンス島観光でした。廈門島の船着き場からコロンス島の船着き場までは遊覧船で 30 分の旅。上陸した三丘田碼頭の近くに「アメリカ領事館旧跡」がありました。アメリカ領事館は 1859 年にここに設置され、人民共和国建国以前までありました。戦前には、ここに日本の領事館も置かれていたそうです。

小さなコロンス島では、排気ガスを放出する自動車の通行は禁止されています。島の海岸沿いにコンクリート道路が通っており、観光客を乗せた電動自動車が走っています。私たちは徒歩の散策は早々とあきらめて、電動車で周遊しました。



コロンス島を散策する観光客



コロンス島のピアノ博物館

伝統的美術品を収蔵する「觀復博物館」（中国で初めての私立博物館です）や「ピアノ博物館」を見学しました。後者は、胡友義さんという民国時代のお金持ちが西欧から買い集めたピアノを収蔵しています。私は、ピアノは弾けませんが、ピアノのできる人だったら「垂涎の的」だと思います。

コロンス島は外で金儲けをした人の別荘地で、美しい庭園をもった邸宅が並んでいます（普段は使用人しか住んでいないとのことです）。島の居住人口を抑制するために、政府は島からの転出は自由、しかし島への転入は認めないという方針を探っています。島には名門の音楽学校（中高一貫校）があり、グリーンのきれいなサッカー場があります。他方で、大気汚染源になるような工場はひとつもありません。のどかで平和な島です。

六日目は高速道路を2時間北上して港町・泉州に遊びました。現存する中国最古のイスラーム寺院である清浄寺はたまたま休館日で、門の外から庭園と大理石（？）の礼拝堂を写真に撮りました。数人旅人風の人たちが門から出てきたので尋ねますと、ムスリムであれば参拝できます、とのことでした。

この寺院は北宋時代の1009年に設立され、元朝時代の1310年に当地にやってきたペルシャ人のお金持ちによって大規模改修が行われました。そこで、西アジアにおけるイスラーム寺院の特徴を伝えており、10世紀から14世紀までの泉州を拠点とした海洋文化交流のシンボルになっているそうです。

このあと、道教寺院である「天后宮」を見学しました。寺院内は中国の英雄たちを祭っており、紅色や金色で飾られた、まさに金ぴか寺院でした。清楚なイスラーム寺院も中国文化ならば、道教寺院も中国の伝統そのものです。中国文化の多様性、多層性を実感できました。

最後の六日目の午前中は廈門歴史博物館を見学しました。近代から今日までの廈門の歴史史料を学びましたが、館内では廈門の港の写真を背景にしてチャイナドレスの中年の婦人たちが記念撮影をしていました。

「撮っていいですか」と尋ねると、OKとのこと。「よかつたら一緒に」と誘われたものです

から、私と瀧川さんは彼女たちに混じって記念撮影をしました。みなさん、やせて私よりもスラッと背が高く、ドレスも深紅、紅色、桃色、緑色、藍色とさまざまです。あとで写真をみると、あでやかな色白美人ばかりです。こういう機会が 20 年前にあつたら、きっと廈門にオーバーステイしてもいい、と思ったことでしょう。楽しい旅でした。



廈門歴史博物館で 中年の婦人たちと記念撮影

## 講演会 中国の物流事情について～宅配業界の動きを中心に

7月16日（日）13時より、東部地域センターにおいて小島末夫先生（前国士館大学21世紀アジア学部教授）が標記のテーマについてお話をしてくださいました。

インターネットの急速な普及とネット通販の隆盛により、中国は2014年にアメリカを抜きいまや世界最大の宅配便市場になっていること、今後は国境を越え中国より海外へと「越境EC（電子商取引）」市場が拡張するだろうとの見通しに聴講者一同、驚いていました。



### ●お知らせ

9月より、中国語の各クラスの教室では入口に右の写真の通り、教室名のプレートが貼られています。

5月から新会員となった門脇弘さんが全クラス分を作成してくださいました。ありがとうございました。

